

## 研 修 区 分 表

平成25年1月30日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
1 職務の理解 (6時間)	6	-	-	6	<p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。</p>
(1) 多様なサービスの理解	3	-	-	3	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>①介護保険サービス（居宅、施設） ②介護保険外サービス</p> <p>上記の事項について、主要なものの名称と概要を把握できる様講義する。</p>
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	-	-	3	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>①居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ②居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ③ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;</p> <p>現場の体験談、パワーポイント、ビデオ等を使い、介護福祉の現場を理解する。</p>
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	5	4	-	9	<p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点およびやってはいけない行動例を理解している。</p>
(1) 人権と尊厳を支える介護	1	3	-	4	<p>&lt;通信課題の内容&gt;</p> <p>(1)人権と尊厳の保持 個人としての尊重 「役割」の実感 尊厳のある暮らし 利用者のプライバシーの保護</p> <p>(3)QOL QOLの考え方 生活の質</p> <p>(4)ノーマライゼーション ノーマライゼーションの考え方</p> <p>(5)虐待防止・身体拘束禁止</p>

				<p>身体拘束禁止 高齢者虐待防止法</p> <p>&lt;講義の内容&gt;  (1)人権と尊厳の保持  ①個人としての尊重  ②アドボカシー  ③エンパワメントの視点  ④「役割」の実感  ⑤尊厳のある暮らし  ⑥利用者のプライバシーの保護  (2) I C F  介護分野における I C F  (3) Q O L  ① Q O L の考え方  ②生活の質  (4)ノーマライゼーション  ノーマライゼーションの考え方  (5)虐待防止・身体拘束禁止  ①身体拘束禁止  ②高齢者虐待防止法  ③高齢者の養護者支援  (6)個人の権利を守る制度の概要  ①個人情報保護法  ②成年後見制度  ③日常生活自立支援事業</p>	
(2)自立に向けた介護	2	1	-	3	<p>&lt;通信課題の内容&gt;  (1)自立支援  自立・自律支援</p> <p>&lt;講義内容&gt;  (1)自立支援  ①自立・自律支援  ②残存能力の活用  ③動機の欲求  ④意欲を高める支援  ⑤個別性／個別ケア  ⑥重度化防止  (2)介護予防  介護予防の考え方</p>
(3)人権に関する基礎知識	2	-	-	2	<p>&lt;講義内容&gt;  ①人権に関する基本的な知識  ②同和問題等  歴史や文学など文献を通じて人権問題を認識を深める講義を行う。</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;  ワークショップ等を通じて利用者への対応方法を体験的に学習する。</p>
3 介護の基本 (6 時間)	3	3	-	6	<p>&lt;到達目標&gt;  ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に</p>

					<p>気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。</li> </ul>
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	0.5	1	-	1.5	<p>&lt;通信課題の内容&gt;</p> <p>1 介護職の役割、専門性と多職種との連携</p> <p>(1) 介護環境の特徴の理解 地域包括ケアの方向性</p> <p>(2) 介護の専門性 自立した生活を支えるための援助</p> <p>(3) 介護に関する職種 介護支援専門員</p> <p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1 介護職の役割、専門性と多職種との連携</p> <p>(1) 介護環境の特徴の理解</p> <p>① 訪問介護と施設介護サービスの違い</p> <p>② 地域包括ケアの方向性</p> <p>(2) 介護の専門性</p> <p>① 重度化防止・遅延化の視点</p> <p>② 利用者主体の支援姿勢</p> <p>③ 自立した生活を支えるための援助</p> <p>④ 根拠のある介護</p> <p>⑤ チームケアの重要性</p> <p>⑥ 事業所内のチーム</p> <p>⑦ 多職種から成るチーム</p> <p>(3) 介護に関する職種</p> <p>① 異なる専門性を持つ多職種の理解</p> <p>② 介護支援専門員</p> <p>③ サービス提供責任者</p> <p>④ 看護師等とチームとなり利用者を支える意味</p> <p>⑤ 互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供</p> <p>⑥ チームケアにおける役割分担</p>
(2) 介護職の職業倫理	1	0.5	-	1.5	<p>&lt;通信課題の内容&gt;</p> <p>2 介護職の職業倫理</p> <p>介護の倫理</p> <p>介護職としての社会的責任</p> <p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>2 介護職の職業倫理</p> <p>職業倫理</p> <p>① 専門職の倫理の意義</p> <p>② 介護の倫理</p> <p>③ 介護職としての社会的責任</p> <p>④ プライバシーの保護。尊重</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;</p> <p>介護職員の職業倫理の重要性を介護現場の事例を示しながらグループワークで理解を深める。</p>

<p>(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント</p>	<p>1</p>	<p>0.5</p>	<p>-</p>	<p>1.5</p>	<p>&lt;通信課題の内容&gt;  3 介護における安全の確保とリスクマネジメント  (2) 事故防止、安全対策  分析の手法と視点  事故に至った経緯の報告  情報の共有</p> <p>&lt;講義内容&gt;  3 介護における安全の確保とリスクマネジメント  (1) 介護における安全の確保  ① 事故に結びつく要因を探り対応していく技術  ② リスクとハザード  (2) 事故防止、安全対策  ① リスクマネジメント  ② 分析の手法と視点  ③ 事故に至った経緯の報告(家族への報告、市町への報告等)  ④ 情報の共有</p> <p>&lt;演習の方法&gt;  介護職員に起こりやすい健康障害やストレスに対する健康管理、ストレスマネジメントをグループワーク手法を用い理解する。</p>
<p>(4) 介護職の安全</p>	<p>0.5</p>	<p>1</p>	<p>-</p>	<p>1.5</p>	<p>&lt;通信課題の内容&gt;  4 介護職の安全  介護職の心身の健康管理  介護職の健康管理が介護の質に影響  ストレスマネジメント</p> <p>&lt;講義内容&gt;  4 介護職の安全  介護職の心身の健康管理  ① 介護職の健康管理が介護の質に影響  ② ストレスマネジメント  ③ 腰痛の予防に関する知識  ④ 手洗い・うがいの励行  ⑤ 手洗いの基本  ⑥ 感染症対策</p>
<p>4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携(9時間)</p>	<p>2.5</p>	<p>6.5</p>	<p></p>	<p>9</p>	<p>&lt;到達目標&gt;  介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。</p>
<p>(1) 介護保険制度</p>	<p>1</p>	<p>4</p>	<p></p>	<p>5</p>	<p>&lt;通信課題の内容&gt;  1 介護保健制度  (1) 介護保険制度創設の背景および目的、動向  ケアマネジメント  地域包括ケアシステムの推進  (2) 仕組みの基礎的理解  保険制度としての基本的仕組み  介護給付と種類</p>

				<p>予防給付 要介護認定の手順</p> <p>&lt;講義内容&gt;  1 介護保健制度  (1)介護保険制度創設の背景および目的、動向  ①ケアマネジメント  ②予防重視型システムへの転換  ③地域包括支援センターの設置  ④地域包括ケアシステムの推進  (2)仕組みの基礎的理解  ①保険制度としての基本的仕組み  ②介護給付と種類  ③予防給付  ④要介護認定の手順  (3)制度を支える財源、組織、団体の機能と役割  ①財政負担  ②指定介護サービス事業者の指定</p>	
(2)医療との連携とリハビリテーション	1	1	-	2	<p>&lt;通信課題の内容&gt;  2 医療との連携とリハビリテーション施設における看護と介護の役割・連携  リハビリテーションの理念</p> <p>&lt;講義内容&gt;  2 医療との連携とリハビリテーション  ①医行為と介護  ②訪問看護  ③施設における看護と介護の役割・連携  ④リハビリテーションの理念  日常生活におけるリハビリテーションの意義と意味が理解出来るよう講義する。</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;  講師の指導のもと、実際にバイタルチェックを受講者が行う。</p>
(3)障害者総合支援制度及びその他制度	0.5	1.5	-	2	<p>&lt;通信課題の内容&gt;  3 障害者総合支援制度およびその他制度  (1)障害者福祉制度の理念  障害の概念  I C F (国際生活機能分類)  (2) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解  介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで</p> <p>&lt;講義内容&gt;  3 障害者総合支援制度およびその他制度  (1)障害者福祉制度の理念  ①障害の概念  ② I C F (国際生活機能分類)  (2) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解  介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで  (3)個人の権利を守る制度の概要  ①個人情報保護法</p>

					②成年後見制度 ③日常生活自立支援事業講義内容
5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）	3	3	-	6	<到達目標> 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。
(1)介護におけるコミュニケーション	2.5	0.5	-	3	<通信課題の内容> 1 介護におけるコミュニケーション (1)介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 コミュニケーション能力に対する理解や配慮  <講義内容> 1 介護におけるコミュニケーション (1)介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ①相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ②傾聴 ③共感の応答 (2)コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ①言語的コミュニケーションの特徴 ②非言語コミュニケーションの特徴 (3)利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ①利用者の思いを把握する ②意欲低下の要因を考える ③利用者の感情に共感する ④家族の心理的理解 ⑤家族へのいたわりと励まし ⑥信頼関係の形成 ⑦自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ⑧アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い (4)利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 ①視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ②失語症に応じたコミュニケーション技術 ③構音障害に応じたコミュニケーション技術 ④認知症に応じたコミュニケーション技術  <演習実施方法> 様々な場面に応じたコミュニケーション技術が身に付くよう、コミュニケーションのロールプレイングを行う。
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	0.5	2.5	-	3	<通信課題の内容> 2 介護におけるチームのコミュニケーション

				<p>(1)記録における情報の共有化 介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録</p> <p>(2)報告 報告、連絡、相談の留意点</p> <p>&lt;講義内容&gt; 2 介護におけるチームのコミュニケーション</p> <p>(1)記録における情報の共有化</p> <p>①介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録</p> <p>②介護に関する記録の種類</p> <p>③個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等）</p> <p>④ヒヤリハット報告書</p> <p>⑤5W1H</p> <p>(2)コミュニケーションを促す環境</p> <p>①会議</p> <p>②情報共有の場</p> <p>③役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）</p> <p>④ケアカンファレンスの重要性</p>	
6 老化の理解（6時間）	3	3	-	6	<p>&lt;到達目標&gt; 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。</p>
(1)老化に伴うところとからだの変化と日常	2.5	0.5	-	3	<p>&lt;通信課題の内容&gt;</p> <p>1 老化に伴うところとからだの変化と日常</p> <p>(2)老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <p>身体的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>筋・骨・関節の変化</p> <p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1 老化に伴うところとからだの変化と日常</p> <p>(1)老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <p>①防衛反応（反射）の変化</p> <p>②喪失体験</p> <p>(2)老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <p>①身体的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>②咀嚼機能の低下</p> <p>③筋・骨・関節の変化</p> <p>④体温維持機能の変化</p> <p>⑤精神的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;</p> <p>加齢、老齢化にともなう身体的、精神的变化による日常生活の影響について、事例をもとにグループワーク手法を用い理解する。</p>

(2) 高齢者と健康	0.5	2.5	-	3	<p>&lt;通信課題の内容&gt;</p> <p>2 高齢者と健康</p> <p>(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <p>骨折</p> <p>筋力の低下と動き・姿勢の変化</p> <p>関節痛</p> <p>(2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <p>循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）</p> <p>循環器障害の危険因子と対策</p> <p>病状の小さな変化に気付く視点</p> <p>高齢者は感染症にかかりやすい</p> <p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>2 高齢者と健康</p> <p>(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <p>①骨折</p> <p>②筋力の低下と動き・姿勢の変化</p> <p>③関節痛</p> <p>(2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <p>①循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）</p> <p>②循環器障害の危険因子と対策</p> <p>③老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症）</p> <p>④誤嚥性肺炎</p> <p>⑤病状の小さな変化に気付く視点</p> <p>⑥高齢者は感染症にかかりやすい</p>
7 認知症の理解（6時間）	4	2	-	6	<p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解している。</p>
(1) 認知症を取り巻く状況	1	-	-	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1 認知症を取り巻く状況</p> <p>認知症ケアの理念</p> <p>①パーソンセンタードケア</p> <p>②認知症ケアの視点（できることに着目する）</p> <p>認知症の人の世界観がわかるように講義する。</p>
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	-	-	2	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>2 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理</p> <p>認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理</p> <p>①認知症の定義</p> <p>②もの忘れとの違い</p> <p>③せん妄の症状</p> <p>④健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）</p> <p>⑤治療</p> <p>⑥薬物療法</p> <p>⑦認知症に使用される薬</p>



					<p>&lt;演習実施方法&gt; 認知症の人の心理や行動をビデオ教材などで理解するとともに、ロールプレイで関わり方を学ぶ。</p>
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	0.5	1.5	-	2	<p>&lt;通信課題の内容&gt; 3 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 認知症の中核症状 認知症の行動・心理症状（BPSD）</p> <p>&lt;講義内容&gt; 3 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ① 認知症の中核症状 ② 認知症の行動・心理症状（BPSD） ③ 不適切なケア ④ 生活環境で改善 (2) 認知症の利用者への対応 ① 本人の気持ちを推察する ② プライドを傷つけない ③ 相手の世界に合わせる ④ 失敗しないような状況をつくる ⑤ すべての援助行為がコミュニケーションである と考えること ⑥ 身体を通じたコミュニケーション ⑦ 相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する ⑧ 認知症の進行に合わせたケア</p>
(4) 家族への支援	0.5	0.5	-	1	<p>&lt;通信課題の内容&gt; 4 家族会への支援 認知症の受容過程での援助 介護負担の軽減（レスパイト）</p> <p>&lt;講義内容&gt; 4 家族会への支援 ① 認知症の受容過程での援助 ② 介護負担の軽減（レスパイト） 家族の苦悩が理解できるよう講義する。</p>
8 障害の理解（3時間）	1.5	1.5	-	3	<p>&lt;到達目標&gt; 障害の概念とICF、障害者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。</p>
(1) 障害の基礎的理解	0.5	0.5	-	1	<p>&lt;通信課題の内容&gt; 1 障害の基礎的理解 (1) 障害の概念とICF ICFの分類と医学的分類 ICFの考え方 (2) 障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーションの概念</p> <p>&lt;講義内容&gt; 1 障害の基礎的理解</p>

					<p>(1)障害の概念とICF</p> <p>①ICFの分類と医学的分類</p> <p>②ICFの考え方</p> <p>(2)障害者福祉の基本理念</p> <p>①ノーマライゼーションの概念</p> <p>障害の理解につながる基本的な概念が理解できるように講義する。</p>
(2)障害の医学的側面、生活障害、心理、行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	0.5	0.5	-	1	<p>&lt;通信課題の内容&gt;</p> <p>2 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識</p> <p>(1)身体障害</p> <p>視覚障害</p> <p>聴覚、平衡障害</p> <p>音声・言語・咀嚼障害</p> <p>肢体不自由</p> <p>内部障害</p> <p>(2)知的障害</p> <p>知的障害</p> <p>(3)精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む）</p> <p>統合失調症・気分（感情障害）・依存症などの精神疾患</p> <p>高次脳機能障害</p> <p>広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害</p> <p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>2 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識</p> <p>(1)身体障害</p> <p>①視覚障害</p> <p>②聴覚、平衡障害</p> <p>③音声・言語・咀嚼障害</p> <p>④肢体不自由</p> <p>⑤内部障害</p> <p>(2)知的障害</p> <p>①知的障害</p> <p>(3)精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む）</p> <p>①統合失調症・気分（感情障害）・依存症などの精神疾患</p> <p>②高次脳機能障害</p> <p>③広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害</p> <p>(4)その他の心理の機能障害</p>
(3)家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5	-	1	<p>&lt;通信課題の内容&gt;</p> <p>3 家族の心理、かかわり支援の理解</p> <p>家族への支援</p> <p>障害の理解・障害の受容支援</p> <p>介護負担の軽減</p> <p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>3 家族の心理、かかわり支援の理解</p> <p>家族への支援</p>

					<p>①障害の理解・障害の受容支援 ②介護負担の軽減</p> <p>&lt;演習実施方法&gt; 本人にみならず家族の障害受容についても理解できるようにグループごとに事例について話し合う。</p>
9 ところとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）	63	12	-	75	<p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</li> <li>・尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</li> </ul>
(1) 介護の基本的な考え方	1	3	-	4	<p>&lt;通信課題の内容&gt; 倫理に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）</p> <p>&lt;講義内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①倫理に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）</li> <li>②法的根拠に基づく介護</li> </ol>
(2) 介護に関する心のしくみの基礎的理解	1	3	-	4	<p>&lt;通信課題の内容&gt; 学習と記憶の基礎知識 感情と意欲の基礎知識 自己概念と生きがい</p> <p>&lt;講義内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学習と記憶の基礎知識</li> <li>②感情と意欲の基礎知識</li> <li>③自己概念と生きがい</li> <li>④老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因</li> <li>⑤ところの持ち方が行動に与える影響</li> <li>⑥からだの状態がところに与える影響</li> </ol>
(3) 介護に関する体のしくみの基礎的理解	1	3	-	4	<p>&lt;通信課題の内容&gt; 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 自律神経と内部器官に関する基礎知識</p> <p>&lt;講義内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①人体の各部の名称と動きに関する基礎知識</li> <li>②骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用</li> <li>③中枢神経系と体性神経に関する基礎知識</li> <li>④自律神経と内部器官に関する基礎知識</li> <li>⑤ところとからだを一体的に捉える</li> <li>⑥利用者の様子の普段との違いに気づく視点</li> </ol>
(4) 生活と家事	4	3	-	7	<p>&lt;通信課題の内容&gt; 生活歴</p>

					<p>自立支援  予防的な対応  主体性・能動性を引き出す  多様な生活習慣  価値観</p> <p>&lt;講義内容&gt;  ①生活歴  ②自立支援  ③予防的な対応  ④主体性・能動性を引き出す  ⑤多様な生活習慣  ⑥価値観</p> <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習としてロールプレイングを適宜実施する。  生活支援として家事サービスを提供する専門職としての視点を演習を通して理解できるようにする。</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;  上記の講義内容について、グループに分かれ、講師の指導のもと、生活支援に関するロールプレイングを行う。</p>
(5) 快適な住環境整備と介護	3	-	-	3	<p>&lt;講義内容&gt;  ①家庭内に多い事故  ②バリアフリー  ③住宅改修  ④福祉用具貸与</p> <p>さまざまな住環境の中で、安全で快適な日常生活を可能にするための工夫について考え、創造できるよう、グループワークなど演習を取り入れる。</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;  上記の講義内容について、福祉用具の利用を行ったり、グループに分かれ、講師の指導のもと、日常生活を可能にするための工夫についてディスカッションを行う。</p>
(6) 整容に関連した心と体の仕組みと自立に向けた介護	7	-	-	7	<p>&lt;講義内容&gt;  ①身体状況に合わせた衣服の選択、着脱  ②身じたく  ③整容行動  ④洗面の意義・効果</p> <p>整容に関する基礎知識を学んだうえで、実際場面の演習を通して、技術を習得できるようにする。</p> <p>&lt;実技演習実施方法&gt;  上記の講義内容について、グループに分かれ、講師の指導のもと、衣服着脱等のロールプレイングを行う。</p>
(7) 移動・移乗に関連した心と体の仕組みと自立に向けた介護	7	-	-	7	<p>&lt;講義内容&gt;  ①利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法  ②利用者の自然な動きの活用</p>

				<p>③残存能力の活用・自立支援  ④重心・重力の働きの理解  ⑤ボディメカニクスの基本原理  ⑥移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）  ⑦移動介助（車いす・歩行器・つえ等）  ⑧褥瘡予防</p> <p>日常生活において不可欠な移乗・移動に関する基礎知識を学んだうえで、実際場面の演習を通して、技術を習得できるようにする。</p> <p>&lt;実技演習実施方法&gt;  上記の講義内容について、グループに分かれ、講師の指導のもと、車いす移乗などのロールプレイングを行う。</p>	
(8) 食事に関連した心と体の仕組みと自立に向けた介護	4	-	-	4	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>①食事をする意味  ②食事のケアに対する介護者の意識  ③低栄養の弊害  ④脱水の弊害  ⑤食事と姿勢  ⑥咀嚼・嚥下のメカニズム  ⑦空腹感  ⑧満腹感  ⑨好み  ⑩食事の環境整備（時間・場所等）  ⑪食事に関連した福祉用具の活用と介助方法  ⑫口腔ケアの定義  ⑬誤嚥性肺炎の予防</p> <p>生命を維持するうえで重要な食事に関する基礎知識を学んだうえで、利用者の状態に応じた食事介助の技術を習得できるようにする。</p> <p>&lt;実技演習実施方法&gt;  上記の講義内容について、グループに分かれ、講師の指導のもと、食事介助などのロールプレイングを行う。</p>
(9) 入浴・清潔保持に関連した心と体の仕組みと自立に向けた介護	7	-	-	7	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>①羞恥心や遠慮への配慮  ②体調の確認  ③全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）  ④目・鼻腔・耳・爪の清潔方法  ⑤陰部清浄（臥床状態での方法）  ⑥足浴・手浴・洗髪</p> <p>入浴・清潔保持に関する基礎知識を学び、安全で気持ちの良い介護を提供する技術を習得する。</p> <p>&lt;実技演習実施方法&gt;</p>

					上記の講義内容について、グループに分かれ、講師の指導のもと、入浴介助などのロールプレイングを行う。
(10) 排泄に関連した心と体の仕組みと自立に向けた介護	7	-	-	7	<p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <p>① 排泄とは</p> <p>② 身体面（生理面）での意味</p> <p>③ 心理面での意味</p> <p>④ 社会的な意味</p> <p>⑤ プライド・羞恥心</p> <p>⑥ プライバシーの確保、</p> <p>⑦ おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害</p> <p>⑧ 排泄障害が日常生活上に及ぼす影響</p> <p>⑨ 排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連</p> <p>⑩ 一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法</p> <p>⑪ 便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食事を多く取り入れる、腹部マッサージ）</p> <p>排泄のしくみを学び、ヒトにとって切り離すことができない行為であるが精神に与える影響を大きいことを実体験（紙パンツを着用する）を通して理解する。</p> <p>&lt; 実技演習実施方法 &gt;</p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、講師の指導のもと、排泄介助などのロールプレイングを行う。</p>
(11) 睡眠に関連した心と体の仕組みと自立に向けた介護	3	-	-	3	<p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <p>① 安眠のための介護の工夫</p> <p>② 環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）</p> <p>③ 安楽な姿勢・褥瘡予防</p> <p>睡眠の基礎知識を学び、心地よい睡眠を確保するための環境づくり等を学ぶ。</p> <p>&lt; 実技演習実施方法 &gt;</p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、講師の指導のもと、体位・姿勢交換などのロールプレイングを行う。</p>
(12) 死にゆく人に関する心と体の仕組みと終末期介護	7	-	-	7	<p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <p>① 終末期ケアとは</p> <p>② 高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）</p> <p>③ 臨終が近づいたときの兆候と介護</p> <p>④ 介護従事者の基本的態度</p> <p>⑤ 多職種間の情報共有の必要性</p> <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習としてロールプレイング、ディスカッションを適宜実施する。</p>

				<p>&lt; 演習実施方法 &gt;</p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、講師の指導のもと、介護従事者としての対応方法などに関するロールプレイングや、終末期の心理・介護に関する考え方などのディスカッションを行う。</p>	
(14) 介護過程の基礎的理解	4	-	-	4	<p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <p>① 介護過程の目的・意義・展開 ② 介護過程とチームアプローチ</p> <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習としてグループディスカッションを適宜実施する。</p> <p>&lt; 演習実施方法 &gt;</p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、講師の指導のもと、複数の事例を活用してディスカッションを行う。</p>
(15) 総合生活支援技術演習	7	-	-	7	<p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <p>① 事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1事例1.5時間程度で上のサイクルを実施する） ② 事例は高齢（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実施事例を通して、今まで学習してきた内容を踏まえ、事例展開を展開する。</p> <p>&lt; 実技演習実施方法 &gt;</p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを行う。</p>
10 振り返り (4 時間)	4	-	-	4	<p>&lt; 到達目標 &gt;</p> <p>研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。</p>
(1) 振り返り	3	-	-	3	<p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <p>① 研修を通して学んだこと ② 今後継続して学ぶべきこと ③ 根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）</p> <p>上記の事項について、講師が講義する。</p> <p>&lt; 演習実施方法 &gt;</p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを行う。</p>
(2) 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	1	-	-	1	<p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <p>① 継続的に学ぶべきこと ② 研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例（OFF-JT, OJT）を紹介</p> <p>上記の事項について、講師が講義する。</p>

※記載内容は、要綱の別紙２の内容を網羅したものとすること。

※講義と演習は一体的に実施すること。なお、科目９の(6)から(11)および(15)の実技演習は、実技内容等を記載すること。

※時間配分の下限は３０分単位とする。